

# いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



## 岩井やすのり

プロフィール 1970 年生まれ 47 歳  
早稲田大学大学院 政治学研究科修了  
H27 年 千葉県議会議員 2 期目当選

### 岩井やすのり 議員事務所

TEL : 0476-36-7799

HP : <http://www.iwai-y.jp> メール : [mail@iwai-y.jp](mailto:mail@iwai-y.jp)

印旛郡栄町安食台 2-26-23(栄町役場前大山ビル 2F)

## 県立幕張総合高入試で**実技優遇** 氷山の一角とも

今年3月、県立幕張総合高入試にて実技検査受験者が優遇されていたことが発覚。本県公立高入試の構造的な問題であるとして、大きな波紋を広げています。

### 高いレベルの文武両道を実践する人気校

県立幕張総合高校は1996年に新設された比較的新しい高校です。7階建て吹き抜け構造の教室棟や3000人収容のアリーナなど充実した施設が注目され、幕張総合高校(千葉市)今春の受験倍率は2.58倍と県内屈指の高さ。近隣では県立柏高校や同八千代高校にも迫る進学校である一方、過去3年間に、サッカー部、陸上競技部、テニス部など、計8つの部活動が全国大会出場を果たす等、運動系部活動が盛んな学校としても知られています。

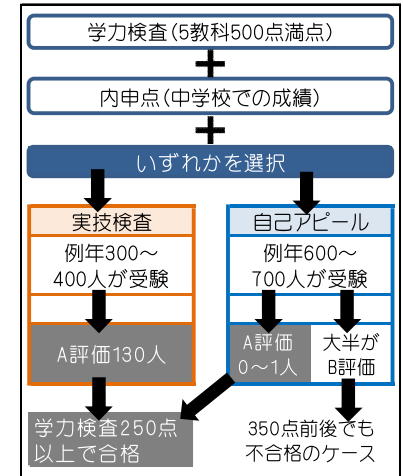


幕張総合高校(千葉市)

程度で合格する一方、その他の生徒は350点前後でも不合格となるケースがあったといえます。

受験者のうちA評価を受ける割合は、自己アピール検査で0.15%であるのに対し、実技検査では37%とその差は実に250倍。また、A評価を受ける130人は事前にリスト化されていたとされ、公平性、公正性を欠いた選抜方法であったとの指摘は免れません。

### 県立幕張総合高入試の仕組み



### 各検査の配点明らかにせず~県立高前期入試

そもそも、学力検査と内申点のみで評価される後期試験と異なり、実技や自己アピールなどの検査が加わる前期試験では、県内の全県立高校でその加点方法が明らかにされていません。つまり、実技や自己アピール検査に、学力検査(500点満点)以上のべらぼうな配点が課されていてもおかしくないことになるのです。もちろん、学業以外の運動やその他技能を評価したり、特色ある学校づくりを推進したりすることは称賛されるべきものですが、選抜基準や検査ごとの配点を公にしないことは、意図しない受験、意図しない学校生活を招きかねず、決して容認できるものではありません。

ある高校関係者は、今回の件について「氷山の一角」とであると漏らすなど、構造的な問題であることをうかがわせます。これを契機に県立高入試の透明化をはかるべく、県議会にてしっかりと働きかけてまいります。

### 「実技」でA評価 「自己アピール」の250倍

同校が2月中旬に実施する前期入試では、学力検査、内申点のほか、部活動への参加を前提とした「実技検査」または口頭による「自己アピール検査」を選択受験し、A~Cの3段階評価を受けた上で加点され、可否判定される仕組みとなっています。

問題となったのは、実技受験者への優遇です。実技か自己アピールでA評価を得れば、学力検査が250点以上などの要件を満たせば合格となったのですが、実技では例年300~400人の受験者のうち130人がA評価となる一方で、自己アピールでは例年600~700人のうちわずかに0~1人。また、自己アピールの評価にあたった教員は、「検査担当者から『なるべくA評価はつけないように』と指示された」とも証言しています。結果、A評価の受験生は学力検査で、250点

# 県立幕張総合高による調査報告書

4/28に発表された報告書(抜粋)を以下に掲載します

## 特色化選抜入試以来の「実技枠130名」を踏襲 (現在の選抜方法の経緯について)

多くの部活動が活躍し、学校の特色化につながっているという同校の現状を踏まえ、H22年度入試以前の特色化選抜において、実技試験を実施し、中学時代、部活動等に積極的に取り組んだ生徒に入学許可を行ってきた。

具体的には、H21年度入試は、入学者定員の40%(240名/600名中)を特色化選抜枠として設け、そのうちの40%(96名)を実技試験による合格者割合としていた。

H22年度入試では、クラス増に伴い全体定員の18%(130名/720名中)を実技試験による合格者割合とした。また、H23年度入試からは入学者選抜の制度が変わったが、これまでの実技試験による合格者の割合を踏まえ、引き続き実技検査を受検した者について、全体定員の18%に相当する130名にA評価をつけることとした。

なお、130名の運用については、部活動等の課外活動の企画立案や連絡調整等を担当する特活指導部で検討することとなっている。

## 「自己アピールにA評価つけないと申合せ」証言も

自己アピールについては、H23~25年度入試は「自己アピールの受検生は学力中心の評価をすると理解している」「Aはつけないと申し合わせがあった」と話した教職員もいるが、記録が残っておらず、詳細は不明である。

自己アピール検査に「なるべくA評価をつけないように」という指示については、H26年度入試当時の校長からの「自己アピール検査においてAがついていない現状を改善するために、A評価をつけてもよい」という職員会議での指示があったものの、関係職員にこの趣旨が十分に伝わらず、状況は改善されなかった。

## A評価 運動部104名、文化部26名で固定化

(A評価をつける人数の調整について)

前期・後期選抜が始まったH23年度入試から、実技検査でA評価をつける人数の上限を募集人員の18%の130名と定め、その運用については特活指導部に任された。運動部が104名、文化部は26名の人数割合とされた。

## 事前に氏名記載の「A評価用名簿」を作成

(A評価をつける受検生のリスト化について)

運動部においては、A評価をつける上限を調整する際、部活動間でA評価となる基準について共通理解を図る観点から、中学時代に実績を上げており、本校に関心を持っている生徒について、具体的な氏名が記載された名簿を用いていた。

## 関係者への情報提供のあり方に反省点

(学校としての総括)

前期選抜は、各学校と同様、学力検査の点数が高い者から順番に内定者の決定を行うものではないが、一方で、学校においてはしっかりと選抜方法・結果について説明責任を果たさなければならないものである。これまで受検生・保護者・その他関係者に対して十分な情報を提供できていたかという点については、反省すべき点が多い。

## 選抜方法・評価基準の見直し、透明化を図りたい

(学校としての今後の方針)

校長の責任の下、教職員全体で入学者選抜全般にわたって見直しを行い、関係職員の共通理解の下に、選抜方法・選抜評価基準を組織として改めて設定し直すとともに、学校として説明責任をしっかりと果たすべく、その内容を志願者や保護者に対してできる限り公表することとしたい。

## 幕張総合高入試で 実技検査優遇

